

「田根ホームカミングデイ」の定着

田根に関わった大学生との
継続可能なつながりの創出



滋賀県 長浜市 田根地区



これまでの田根と大学の歩み

2007年 **慶應義塾大学** 小林研究会との交流

マサチューセッツ工科大 (MIT) 神田ゼミとの交流

2011年 **同志社大学** So Hubとの交流

2021年 **東京大学** フィールドスタディ型政策協働プログラム

2022年 **専修大学** フィールドワーク

2023年 **早稲田大学** 地域連携ワークショップ

京都橘大学 クロスオーバー型課題解決プロジェクト

2024年 **立正大学** 経済フィールドワーク、地域発展委員会

人間環境大 デイサービスとの連携

2025年 **早稲田大学** 地域連携スタディツアー



交流会 田根・坐・ガーデン



田根でくつろぐMIT生



大昼食会

大学との交流を如何に継続するか

大学の
プログラム
終了

交流が終わる
タイミング

大学生の
卒業

教授の
退官

みなさんに望むもの 交流を終わらせない仕組みづくり



- 2024年 発案 「ホームカミングデイ」 提案
- ↓
- 2025年 具体化 「ホームカミングデイ」 実証
- ↓
- 2026年 定着 「ホームカミングデイ」 継続

※ ホームカミングデイとは、田根地区に関わったことのある大学生が、田根地区に集い、地域住民も交えて交流する「同窓会」のようなもの

ホームカミングデイの様子

2026年3月7日、8日



スケジュール案

春

- 現地関係者や他大学の学生と情報共有
- OBOGにインタビュー

夏

- 現地活動
- 現地活動を踏まえて企画を検討

秋

- 現地活動でホームカミングデーの試行
- 試行結果の評価と改善策の検討

冬

- ホームカミングデーの実施
- 最終報告会（学内・現地）

地域が期待すること

★ 人口減少は止められない

それでも地域は元気でありたい

だから、大学生やOB・OGとの交流を続けたい

★ 関係人口の創出が必要

「ホームカミングデイ」は有力な手段

可能ならホームステイも活用しつつ



地域が期待すること

★ 関係人口の創出

「コウノトリ」、住んでないけど、
出会えばウキウキ、子どもも大喜び。
田根にとって大切な「関係人口」。

コウノトリのように出会うだけで心が弾む存在。
そんな大学生やOB・OGとの交流を希望。

田根にはたくさんの
コウノトリが飛
来します

